

第3章 「^{うま}美し国おこし・三重」の取組状況

～多様な主体が参画し、地域づくりの実践・展開を支援するしくみ～

1 「^{うま}美し国おこし・三重」全体概要

「^{うま}美し国おこし・三重」は、住む人も訪れる人も「心の豊かさ」を実感できる「こころのふるさと三重」づくりを進める一環として、三重県全域で行う、三重の特色ある地域資源を生かした取組です。地域の多様な主体が、地域の特色ある自然や歴史・文化などを活用して取り組む地域づくりを基本に、2009年（平成21年）から2014年（平成26年）までの6年間にわたって、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大をはかり、自立・持続可能な地域づくりへとつなげていきます。

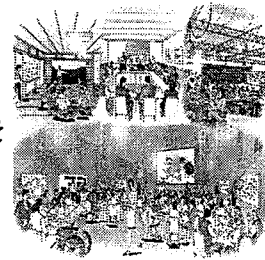
2008年（平成20年）には、県や市町、地域づくり実践者、企業等地域の多様な主体で構成する「^{うま}美し国おこし・三重」実行委員会を組織し、2009年（平成21年）には、「地域での^{うま}美し国おこし」の取組を始めました。2010年（平成22年）からは、県内各地のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し、全県的・広域的な取組を推進する「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」に取り組み、2014年（平成26年）には集大成イベントを開催し、地域をよりよくしていこうとする住民の皆さんによる6年間の地域づくりの成果を披露し、この取組の終了後も引き続く、自立・持続可能な地域づくりにつなげ、三重県をさらに元気にしていくこととしています。

2010年度（平成22年度）は、この取組の基本となる、地域の課題やビジョンを話し合う座談会を県内各地で607回、取組の開始以降1,224回開催し、座談会をとおして地域をよりよくしていこうとする住民の皆さんにパートナーグループとして110グループ、取組の開始以降263グループに登録いただき、また、拡大座談会を5回開催するなど、「地域での^{うま}美し国おこし」の取組を進めました。併せて、「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」の初年度として、「人と自然の“絆”づくり」の理念に基づき、「海の命・森の命」をテーマとした3つのテーマプロジェクト（「自然環境の継続的な保全・再生プロジェクト」、「自然の恵みの循環と活用プロジェクト」、「自然の持つ新たな魅力の発見と創造プロジェクト」）に取り組みました。さらに、担い手の育成として、ファシリテーション研修や広報・情報発信研修の実施、専門家派遣や財政的支援等を行いました。

2009年オープニング

■オープニングⅠ(地域づくりを「対話する」大会)

地域づくりを加速する県民運動であることを周知するとともに、地域の課題やビジョンについて、地域づくりに取り組む皆さんが対話する集会をワールドカフェ方式で行います。



■オープニングⅡ(地域づくりを「実践する」場)

先導的な地域づくりのモデルを県内数地域でキックオフプロジェクトとして取り上げ、積極的に支援するとともに、その活動プロセスを記録し、広報していきます。また、活動成果を発表する交流会を開催します。

■オープニングⅢ(同時期開催の県・市町などの大規模イベントとの連携)

熊野古道世界遺産登録5周年事業など、県や市町などの大規模イベントと連携し「美し国おこし・三重」の取組をPRしていきます。

地域での美し国おこし

全県的に共通する分野の活動

テーマに基づき全県的に 取り組む美し国おこし

◆ 地域づくり活動をしている人や、関心のある人に集まっていただき、地域の課題やビジョンについて、話し合う座談会を開催します。
◆ 座談会をとおして、地域をより良くしていくとする住民の皆さんの自発的な地域づくりグループに「パートナーグループ」として登録いただきます。

◆ 地域の“絆”づくりや地域の資源を生かした付加価値づくりに取り組めます。

サポート
メニュー

◆ 県内各地域のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し、テーマプロジェクトとして全県での取組を推進します。

◆ 暮らしに密接に関わるテーマ、例えば、景観づくり、森づくり、環境、食などパートナーグループにおける類似の活動を基にしながらテーマを設定していきます。

2014年集大成

■集大成Ⅰ(地域づくりの「成果を発表する」大会)

パートナーグループが一堂に会し、6年間の成果を発表し、その活動の継続について語り合う場を設けます。

■集大成Ⅱ(地域づくりを「応用する」集客イベント)

集客交流につながる取組の成果を応用し、誘客のしくみなどの体制を整え、県内全域を対象とした集客交流イベントを開催します。

■集大成Ⅲ(地域づくりを「高めあう」交流イベント)

観光や集客とは直接結びつかない活動についても集大成の場を設けます。これまでの活動と関連する会議やシンポジウムを開催するなど、その後の活動の継続や発展につながる交流イベントを開催します。

2 「地域での^{うま}美し国おこし」の取組状況

(1) 「座談会」等の開催

①目的（狙い）

- ア 地域のキーパーソンを顕在化すること
- イ 地域の魅力を再発見し、それを資源とする活動を生み出すこと
- ウ 地域の課題を明らかにし、解決できる活動を生み出すこと
- エ 地域を考える住民の仲間を増やし、活動の輪を広げていくこと
- オ 既存の地域づくりグループの安定や拡大・発展に必要な活動を生み出すこと

○ 座談会開催目標 350回

②内容

「地域づくりに取り組んでいる」、「これから始めようとする」、または「地域をよりよくしたいと思う」住民の皆さんを対象に、地域の課題やビジョンを話し合う場となる座談会、説明会等を市町と調整の上で607回、取組の開始以降1,224回開催しました。



(桑竹会座談会)



(伊勢市公募型座談会)

(2) パートナーグループの登録

①目的（狙い）

パートナーグループとは、「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、住民の皆さんが主体となり自発的に地域をよりよくしていこうとする活動を行うグループで、「^{うま}美し国おこし・三重」実行委員会に登録されたグループをいいます。特色ある地域の資源を生かしたパートナーグループの活動を活発化することによって、自立・持続可能な地域づくりをめざします。

○ パートナーグループ登録目標 200グループ

②内容

パートナーグループとして、110グループ、取組の開始以降263グループに登録

いただきました。

プロデューサーによる助言等のほか、人材育成のための研修や専門家派遣、財政的支援等を行いました。

(3) 拡大座談会

①目的 (狙い)

市町単位や実行委員会事務局地域事務所単位などで実施し、グループ間の連携・交流のきっかけづくりや「美し国おこし・三重」の取組をアピールすることを目的としています。

②内容

県内5か所で開催し、延べ430人に参加いただきました。

	名称	実施日	場所	参加者数
1	熊野地域・合同拡大座談会 (三重県青年農業士連絡協議会と共催)	2010年(平成22年) 8月17日(火)	熊野市活性化施設	21
2	拡大座談会in菰野 (菰野町社会福祉協議会と共催)	9月30日(木)	菰野地区コミュニティセンター	93
3	「熊野古道伊勢路」語り部・ガイドの会拡大座談会	10月1日(金)	大紀町役場 大内山健康福祉センター・いきいきプラザ	36
4	桑名市拡大座談会 (桑名市と共催、協力:慶應義塾大学環境情報学部、四日市大学研究機構)	10月2日(土)~ 10月3日(日)	桑名市内 桑名市役所	100
5	桑員地域拡大座談会 (いなべ市、東員町、とういんボランティア市民活動支援センターと共催、協力:いなべ総合学園高校、桑名西高校、相可高校)	2011年(平成23年) 2月12日(土)	いなべ総合学園高校	180



(拡大座談会 in 菰野)



(桑員地域拡大座談会)

(4) 「地域での^{うま}美し国おこし」の取組成果など

①取組の成果など

- ・「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の基本となる座談会や説明会等を、市町との調整の上で、県内全域で開催することができました。
- ・地域での座談会や広域での拡大座談会等の開催により、地域のキーパーソンの顕在化と併せて、特色ある地域資源を生かして地域をよりよくしていこうとするグループのネットワークやグループ活動の輪が広がり、また、グループの課題解決のきっかけづくりにつながりました。
- ・パートナーグループ登録数は目標を下回ったものの、座談会の開催数は目標を上回り、住民の皆さんの地域づくりに取り組む気運、意欲の向上につながったと考えています。

②今後の方針

より多くの皆さんにこの取組を知っていただき、また、参画いただくために、市町と共に、公募型（市町広報紙等による呼びかけ型）座談会の開催に努め、地域の課題やビジョンを話し合い、地域資源の発掘・活用についての対話を進めていきます。また、パートナーグループの登録が進むよう努めていきます。

3 「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」取組状況

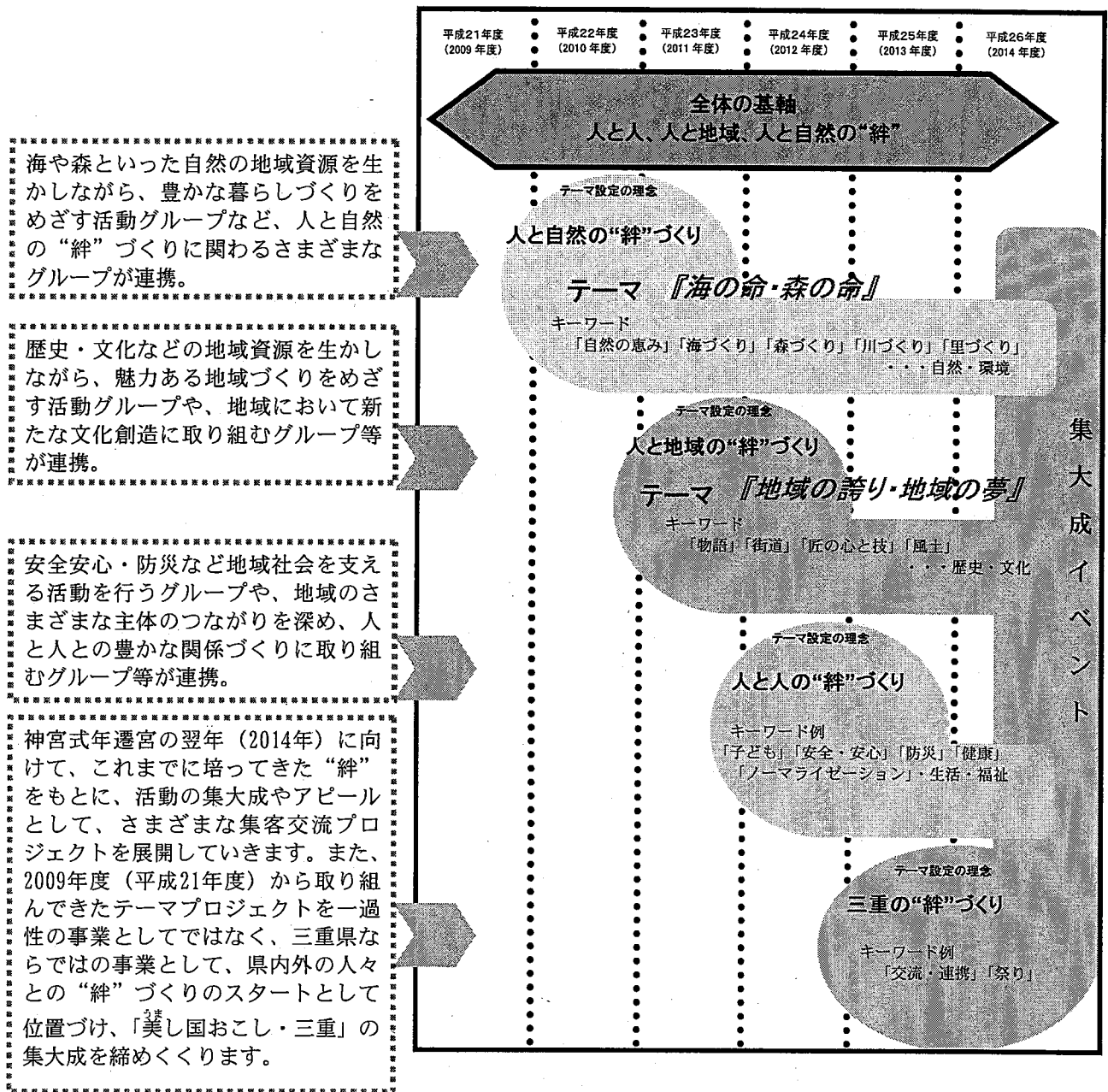
(1) 目的（狙い）

県内各地域でパートナーグループが取り組んでいる活動を、2010年度（平成22年度）から2014年度（平成26年度）の5年間をかけて、共通する分野（テーマ）ごとに連携し、全県的・広域的に進めていきます。

この取組により、多様な主体との協働の担い手であるパートナーグループの活動を全県的・広域的に分野（テーマ）ごとにネットワーク化し、情報発信することで、それぞれの活動や地域の魅力の発見、地域経済の活性化、地域の担い手づくり、多様な誘客・交流の創出等を加速させ、^{うま}「美し国 三重」をさらに元気にしていきます。

取組にあたっては、^{うま}「美し国おこし・三重」基本構想の基本理念に掲げる「人と人、人と地域、人と自然の“絆”」を5年間の基軸に据えて、次の4つの理念によりテーマ設定を行います。

2010年度（平成22年度）～2011年度（平成23年度）は「人と自然の“絆”づくり」、2011年度（平成23年度）～2012年度（平成24年度）は「人と地域の“絆”づくり」、2012年度（平成24年度）～2013年度（平成25年度）は「人と人の“絆”づくり」、そして、2013年度（平成25年度）～2014年度（平成26年度）は「三重の“絆”づくり」を理念に、それぞれにテーマを設定して2年ずつ展開し、2014年（平成26年）の集大成イベントへとつなげていきます。



(2) 内容

2010年度（平成22年度）は、「人と自然の“絆”づくり」を理念に、「海の命・森の命」をテーマとして、次のプロジェクトに取り組みました。

また、アサヒビール(株)様からの寄付金により、テーマ「海の命・森の命」パンフレットを作成しました。

○自然環境の継続的な保全・再生プロジェクト

社会貢献活動に誰もが楽しめるレジャー活動を組み合わせた新しいボランティアの形であるソーシャルレジャーを促進したり、竹に関する研究機関や企業、竹関連パートナーグループなどが集まり、竹の有効活用に関する発表やワークショップを行う「竹メッセ」などを実施しました。

○自然の恵みの循環と活用プロジェクト

生ごみや未活用な有機資源の堆肥化を進めているグループや農産物生産者、販

売者、消費者をつなぎ、地域単位での「地域リサイクルループ（地域資源のリサイクル循環）」をめざした交流会などを開催しました。

○自然の持つ新たな魅力の発見と創造プロジェクト

自然豊かな県南部を中心に、自分で目標を設定し、課題を乗り越える力など、人として欠くことのできない生きる力を身につけ、人間力を高める体感プログラムである「チャレンジキャンプ」および三重の自然のもつ、癒し・健康・精神性等の新たな魅力を発掘・発見する「ココロとカラダの健康ツーリズム」のモニターツアーなどを実施しました。

(3) 取組の成果など

- ・テーマプロジェクトに取り組むことで、パートナーグループ活動の活発化や連携など、「美し国おこし・三重」の取組が広がりました。
- ・2011年度（平成23年度）～2012年度（平成24年度）に取り組む、「人と地域の“絆”づくり」を理念とする具体的テーマを、「地域の誇り・地域の夢」と決めました。
- ・より多くのグループの皆さんと連携した取組やPRができるよう、具体的なプロジェクトの提案を早期に行う必要があります。

(4) 今後の方針

- ・2年目の取組となるテーマ「海の命・森の命」については、パートナーグループや取組内容を公募・選定するなどして、より具体的・計画的に個別プロジェクトを進めるとともに、プロジェクトの実践を通じて、パートナーグループや多くの関係者の皆さんとの連携をはかることで、活動の自立・持続のしくみづくりにつなげていきます。
- ・2011年度（平成23年度）～2012年度（平成24年度）のテーマである「地域の誇り・地域の夢」について、県、市町、実行委員会委員等と連携しながら具体的な取組を進めていきます。
- ・2012年度（平成24年度）～2013年度（平成25年度）の具体的なテーマについて、「人と人の“絆”づくり」の理念に基づき決定していきます。

4 担い手の育成と支援の取組状況

(1) 人材（キーパーソン）育成

①目的（狙い）

地域づくりをとおして多様な主体との協働の担い手となる人材の育成を目的として研修を実施しました。

- ファシリテーション研修 3会場（各4日間）
- 広報・情報発信研修 3会場（各3日間）

②内容

【ファシリテーション研修】

「メンバー同士の気持ちや意見の方向性をまとめたたい」、「地域づくりをサポートしたい」という皆さんを対象に、鈴鹿、松阪、熊野の3会場でそれぞれ4日間ずつ研修を実施し、45人の参加をいただきました。

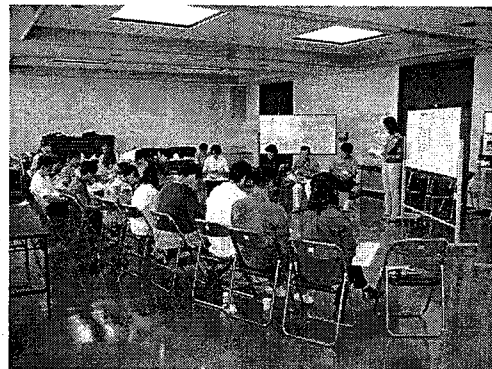
	主な内容	熊野会場	松阪会場	鈴鹿会場
Step 1	<p>★ファシリテーションの基本 (2日連続研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・＜聴く力＞の養成 ・場を和ませる技法 ・ファシリテーション演習 ・プロセスデザイン ほか 	<p>7月3日(土) <10時~17時> 7月4日(日) <10時~17時> 場所: 県熊野庁舎 受講者実績: 13人</p>	<p>8月21日(土) <10時~17時> 8月22日(日) <10時~17時> 場所: 県松阪庁舎 受講者実績: 13人</p>	<p>8月28日(土) <10時~17時> 8月29日(日) <10時~17時> 場所: 県鈴鹿庁舎 受講者実績: 19人</p>
Step 2	<p>★ファシリテーションの実践 ・「美(うま)し国おこし・三重」の座談会等での実地研修 (コーディネーターが情報提供&アドバイスでサポート)</p>	<p>7月中旬~ 8月下旬 (各受講者1回 以上実地を体験) 受講者実績: 14人</p>	<p>8月下旬~ 10月中旬 (各受講者1回 以上実地を体験) 受講者実績: 13人</p>	<p>9月上旬~ 10月上旬 (各受講者1回 以上実地を体験) 受講者実績: 16人</p>
Step 3	<p>★自分らしいファシリテーションとは? (1日研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステップ2のふりかえり (実践での課題と将来の展望を共有) ・ファシリテーション全般についての課題検討 ・目標とするファシリテーター像 	<p>9月4日(土) <10時~17時> 場所: 県熊野庁舎 受講者実績: 12人</p>	<p>10月23日(土) <10時~17時> 場所: 県松阪庁舎 受講者実績: 16人</p>	<p>10月16日(土) <10時~17時> 場所: 県鈴鹿庁舎 受講者実績: 10人</p>

※ 2009年度(平成21年度)の本研修受講者で、今回アシスタントとして各会場で協力いただいた方

4人	2人	4人
----	----	----



(熊野会場: ファシリテーション研修)

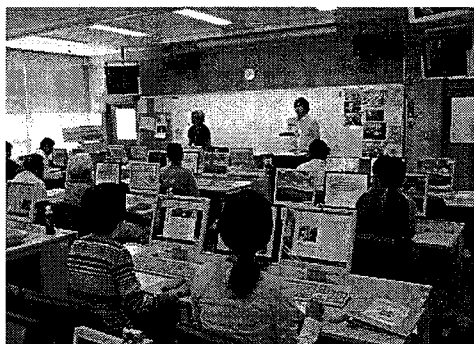


(鈴鹿会場: ファシリテーション研修)

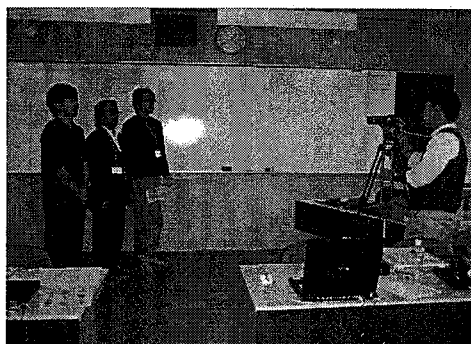
【広報・情報発信研修】

「グループの活動をもっとアピールしたい」、「上手に宣伝して販売や誘客を伸ばしたい」という皆さんを対象に、四日市、津、伊勢の会場でそれぞれ3日間、研修を実施し、37人の参加をいただきました。

	主な内容	津会場 津工業高校	四日市会場 四日市西高校	伊勢会場 宇治山田商業 高校
1 日 目	「地域づくりに必要な広報とは？」 ・ 広報の必要性について学ぶ ・ ブランディングの手法について ・ プレスリリース作成 ほか	9月5日(日) (10時～17時) 受講者実績： 14人	9月12日(日) (10時～17時) 受講者実績： 14人	10月24日(日) (10時～17時) 受講者実績： 8人
2 日 目	「インターネットやチラシを用いた効果的な広報・情報発信とはどんなもの？」 ・ インターネット、チラシの特性を学ぶ ・ ホームページ・ブログ作成など ・ 効果的なチラシ作成 ほか	9月25日(土) (10時～17時) 受講者実績： 15人	10月3日(日) (10時～17時) 受講者実績： 8人	11月13日(土) (10時～17時) 受講者実績： 11人
3 日 目	「ビデオカメラを使った映像作りに挑戦！」 ・ 映像制作の基本を学ぶ ・ ナレーションの原稿作成 ・ 編集作業を体験 ・ まとめ、振り返り ほか	10月17日(日) (10時～17時) 受講者実績： 13人	11月14日(日) (10時～17時) 受講者実績： 10人	11月20日(土) (10時～17時) 受講者実績： 8人



(津会場：広報・情報発信研修)



(四日市会場：広報・情報発信研修)

③取組の成果など

- ・ 受講者のアンケートでは、ファシリテーション研修の評価は100点満点中84.9点、広報・情報発信研修の評価は100点満点中91.9点と高い評価をいただきました。
- ・ また、一部の受講者には、拡大座談会や成果発表・交流会等に、研修等で身につけた技術を生かして「美し国おこし・三重」の取組のサポート役として参加いただきました。
- ・ 今後の研修等の実施にあたっては、広く周知に努めていく必要があります。

④今後の方針

- ・ 2010年度(平成22年度)と異なる地域で引き続き行っていきます。

- ・2011年度（平成23年度）は、ファシリテーション研修、広報・情報発信研修のほか、地域づくりグループの活動を継続させるためのマネジメント研修を県内2会場で実施します。（四日市、松阪地域を予定）

（2）グループ育成

①目的（狙い）

パートナーグループの育成をはかるため、グループのニーズを把握し、必要に応じて専門家派遣やネットワークコーディネーターによるネットワーク化支援を実施します。

②内容

座談会等によりパートナーグループのニーズを把握し、パートナーグループ同士の連携、社会貢献活動に関心のある企業や地域との連携を進める大学等とパートナーグループとの連携を進めるとともに、専門家派遣（（4）専門家派遣で再掲説明）等を行いました。

③取組の成果など

- ・他のグループ等とのネットワークができたことにより、パートナーグループの活動の活性化につながりました。
- ・パートナーグループアンケートの自由記述では、「他団体と知り合えた」、「ネットワークができた」ことをあげるグループが多くありました。
- ・一方、同アンケートによると、新たに築くことのできたネットワークの構築数は、目標の600件に対して167件にとどまりました。これは、ネットワークの構築には一定の時間が必要であること、交流・連携のきっかけとなる拡大座談会の開催が5か所にとどまったこと、パートナーグループの増加に伴い個別座談会が増加したことなどが原因と考えられます。

④今後の方針

今後は、公募型の座談会や「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」の取組を通じて、パートナーグループ間の交流や他団体との交流を深めるとともに、ネットワークコーディネート機能を充実させ、必要なネットワークづくりに注力していきます。

（3）中間支援機能・組織

①目的（狙い）

個々の地域づくりのグループがその活動を継続していくためには、さまざまな側面支援を継続的に得られるしくみの整備が必要であることから、パートナーグループが新たに中間支援組織・機能の創設、拡充を行う際に支援します。

②内容

ファシリテーション研修の受講成果を生かした、地域における市民活動団体同士の交流機会の継続的な提供等によりグループの中間支援機能の拡充につながりました。また、竹関連取組のネットワーク化支援の実施による中間支援機能を担うグループが生まれました。

③取組の成果など

中間支援組織の創設、機能の拡充など、地域づくりの取組の自立性・持続性を高めるしくみの構築は、目標の3件に対して次の2件にとどまりました。

1) とういんボランティア市民活動支援センター運営委員会（東員町）

ファシリテーション研修受講者が市民活動団体同士の交流会を継続的に開催することで、交流・連携の機会を提供するなど中間支援機能の拡充につながりました。

2) たき環境くらぶ“竹遊号”（多気町）

竹関連のパートナーグループのネットワーク化をはかる中で、地域・分野を越えた連携や産業化を視野に入れた中間支援機能を担うグループが生まれました。

④今後の方針

中間支援機能を担っている、あるいは今後担おうとするパートナーグループへの支援を行っていきます。

(4) 専門家派遣

①目的（狙い）

パートナーグループの活動を活性化し、課題の解決を支援するために、それぞれの案件にふさわしい専門家を派遣します。

②内容

パートナーグループの要請に基づき、プロデューサーと協議の上で、専門家派遣を15件延べ32回（日）実施しました。

派遣日	派遣を受けた パートナーグループ名	アドバイス内容
2010年（平成22年） 4月18日	元丈の里 営農組合	地域資源を活用した商品開発
4月20日	大きくすファーム	家庭菜園野菜の直売所経営
6月11日	里山薬食塾 しえあわせ	薬食をテーマにした今後の活動
6月11・17日、11月29日、12 月13日、2月2・28日	Hinokku	活動紹介のパンフレット作成

6月27日、7月18日、8月21日、9月20日、10月10日	特定非営利活動法人 三重ドリームクラブ	地域における時代祭の企画運営
8月7日	長田なたねの郷づくりの会	なたね油の料理への活用法
9月14日、10月24日	アンチョビ・サーデン錦	未利用小魚を活用した商品開発
9月16・29日、10月20日、11月29日、1月20日、2月26日	熊野宮川を守る会	地域の気候にあった花壇づくり
11月3日	蒲生氏郷公顕彰会	茶道における蒲生氏郷の功績
11月25・26日	参宮ブランド「擬革紙」の会	和紙絞りに係る知識と技術
11月27日	よみがえれ大又川連絡協議会	河川の水質浄化
12月7日	おかずきのいどころね	新たなエコアートの手法
2011年（平成23年） 1月30・31日	麻生の浦会	商品パッケージの知識や技術
3月15日	「竹の都・明和」農業生産研究会	イベントの企画・運営
3月21日	高齢者と障がい者の暮らしと住まいの研究会	PR映像の撮影方法



(専門家派遣：大きくすファーム)



(専門家派遣：参宮ブランド「擬革紙」の会)

③取組の成果など

必要とされる専門家を派遣することで、パートナーグループの活動が充実したものになりました。

④今後の方針

パートナーグループが活動を継続していく上でも、県内の専門家で対応できるものは、極力県内の専門家を派遣するとともに、この制度の活用を一層進めます。

(5) 広報・誘客支援

5 (1) 広報宣伝で再掲説明

(6) ネットワーク化支援

①「^{うま}美し国おこし・三重」サポーターズクラブ

ア 目的（狙い）

パートナーグループ活動の協働や連携を推進するとともに、地域や社会への貢献活動に関心のある企業や地域との連携を進める大学、団塊の世代等と、地域づくりの担い手やサポーターのネットワークづくりを進めます。

イ 内容

ホームページやチラシ等により、「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の趣旨に賛同し、本取組のPRや実際の活動を応援していただける県内外の個人、団体、企業を対象に、「^{うま}美し国おこし・三重」サポーターズクラブへの参加を呼びかけており、2010年度（平成22年度）は団体38件、個人58人の登録をいただき、開設以降総計で団体50件、個人124人となりました。

ウ 取組の成果など

実行委員会が主催した「平成21年度成果発表・交流会」や「平成22年度活動報告・交流会」にもスタッフとして運営に協力していただきました。

エ 今後の方針

引き続き、サポーターの登録を進めるとともに、現在のしくみでは、実行委員会が主催する事業以外、例えば、パートナーグループへの支援は登録された皆さんの自主性に任されていることから、さらにサポーターズクラブの皆さんに活躍していただくことができる場の設定を検討していきます。

②成果発表・交流会

ア 目的（狙い）

全てのパートナーグループを対象に1年の取組をお互いに発表し合い、次年度に向けた活動の抱負を語り合います。また、パートナーグループ以外で、地域おこしを実践している、または、これから実践しようとする皆さんにもご参加いただき、交流を深めます。

県内全域にわたってパートナーグループ間相互の連携を促進するとともに、本取組の県内外に向けた情報発信の機会とします。

イ 内容

	名称	実施日	場所	参加者数
1	平成21年度成果発表・交流会※1	2010年(平成22年) 6月6日(日)	津市 メッセウイング・みえ	約2,200 人
2	平成22年度活動報告・交流会※2 (三重大学と共催)	12月18日(土)	津市 三重大学	約600 人

※1 チリ中部沿岸で発生した地震による津波警報の発表により 2010 年（平成 22 年）2 月 28 日（日）から延期

※2 成果発表・交流会開催からの期間が短かったため活動報告の名称を使用

〈開催概要〉

- ・パートナーグループによる舞台発表
- ・交流会
- ・ブース出展（成果発表・交流会のみ）
- ・テーマ別ワークショップ（活動報告・交流会のみ）

ウ 取組の成果など

多くの皆さんにご参加いただき、活動内容、エリア、世代を越えた交流をはかることができました。

エ 今後の方針

引き続き毎年 1 回、1 年の取組の成果発表と交流会を実施していきます。



（成果発表・交流会）



（活動報告・交流会）

（7）財政的支援

①目的（狙い）

パートナーグループの活動の自立・持続性を高めるため、地域に貢献しながら安定した活動を維持できる活動の初期投資の経費に対して支援します。

②内容

プロジェクトを企画し、認定を受けたパートナーグループに対し、市町の考え方に沿って、初期投資に係る経費を 1 回に限り市町と共に支援しました。2010 年度（平成 22 年度）は 7 件の支援を行いました。

(単位:円)

	事業名	PG名	市町名	実行委員会補助額 (市町負担分含む)	左欄のうち 市町負担額
1	亀山みそ焼きうどん本舗	亀山みそ焼きうどん本舗	亀山市	567,987	283,994

<事業概要>

調理機材やPR用の着ぐるみ等を購入し、「亀山みそ焼きうどん」の販売・PRをさらに拡大していくことで、さらなるグループ活動費の確保や情報の発信、マップ制作を行います。

2	手作り甲冑隊とゆるキャラ®によるまちづくりキャラバン隊	特定非営利活動法人 三重ドリームクラブ	津市	600,000	300,000
---	-----------------------------	---------------------	----	---------	---------

<事業概要>

武者行列のグレードアップに必要なのぼりや太鼓等を購入し、よりエンターテインメント性を高めることで、主催者からの謝金収入増をはかります。また、市内外さらには県外のイベント出演の機会を拡大することで、津市や藤堂高虎のPR機会が増えるとともに、協力者や参加メンバーの拡充が期待できます。

3	木曾岬の宝「トマトソース」がつなぐ地域の絆・魅力発信プロジェクト	ごたーげさん	木曾岬町	700,000	350,000
---	----------------------------------	--------	------	---------	---------

<事業概要>

地域で廃棄されている規格外トマトを活用した「トマトソース」を生産するための施設を整備し、生食だけでなく「木曾岬トマト」の魅力を加工品として発信し販売していくことで、資源の有効活用による新たな経済循環を創出します。

4	多気町波多瀬 地域の特徴を活かした6次産業化事業	元丈の里 営農組合	多気町	1,040,000	400,000
---	--------------------------	-----------	-----	-----------	---------

<事業概要>

米を米粉に加工するための高速粉碎器を購入し、地元産の農産物の生産・加工・販売という6次産業の構造を地域全体で確立することで、地域の活性化、雇用の創出、地域施設の集客につなげます。

5	麻生の浦会味噌づくりプロジェクト	麻生の浦会	鳥羽市	940,560	363,840
---	------------------	-------	-----	---------	---------

<事業概要>

味噌づくりに必要な調理器具の購入や施設を整備し、現在は個人でつくっている味噌を商品として生産・販売するだけでなく、味噌と地元食材を使った加工品を開発・販売することで、地域の産業活性化や地域間交流をはかっていきます。

	事業名	PG名	市町名	実行委員会補助額	市町補助額
6	海の環境教育プログラム 策定プロジェクト	海守り	紀北町	180,000	120,000

<事業概要>

紀北町と協働で「海の環境教育プログラム」を開発するために必要なデジタルカメラや顕微鏡等を購入します。体験メニューを有料で提供することで、必要経費をまかなうことが可能となり、グループの活動を自立・持続可能なものとしていきます。

	事業名	市町実行委員会名	市町名	実行委員会補助額	市町負担額
7	大紀ふれあいまつり	大紀ふれあいまつり 実行委員会	大紀町	500,400	333,600

<事業概要>

3市町が合併した大紀町において、町内外との交流を深めるために実施する「大紀ふれあいまつり」に必要なスタッフジャンパーやのぼり等を購入します。毎年このまつりを町内6地域においてもち回り開催することで、継続的な地域間交流の場としていきます。

- ※ 1～5の市町においては、負担金方式を採用しているため、実行委員会が市町の支援金と合わせて、パートナーグループに直接補助します。
- ※ 4～7の事業実施地域は、過疎地域等に該当しますので、実行委員会の負担割合が大きくなっています。
- ※ 6の紀北町の補助制度は、実行委員会も含めた補助総額を30万円までと定めています。
- ※ 7の補助事業は、市町とパートナーグループ等により構成される市町実行委員会等が実施する事業に対する補助です。



(財政的支援：特定非営利活動法人
三重ドリームクラブ)



(財政的支援：麻生の浦会)

③取組の成果など

パートナーグループの活動を充実、継続していくための必要な支援を、市町と共に行うことができました。

④今後の方針

パートナーグループの活動の自立・持続につなげていくため、引き続き、パートナーグループ、実行委員会、市町、プロデューサーが協議しながら、企画を検討し、

必要な支援を行っていきます。

5 広報宣伝・活動促進の取組状況

(1) 広報宣伝

①目的（狙い）

県民の皆さんに「^{うま}美し国おこし・三重」の取組のめざすところや、取組全体の理解を得るため、パートナーグループの活動の紹介などをおして、広報宣伝活動を行います。

②内容

下記の取組をおして、取組全体の認知・理解促進をはかるとともに、「地域での^{うま}美し国おこし」の取組（個々のパートナーグループの活動）の認知促進に焦点をあてた情報発信や、地域ごと、マスコミ媒体ごとの特性に応じて、本取組を支援いただけるよう理解を求め、情報提供や取材依頼を行いました。

また、テレビ、ラジオ、新聞での広報等を行うほか、マスコットキャラクターや広報グッズを活用して県内外のイベント等において取組のPRを行いました。

ア 機関紙の発行（「^{うま}美し国おこし・三重」だより）

「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の周知をはかり、その関心を高めるため、テーマプロジェクトの取組状況、サポートメニューや拡大座談会などの「^{うま}美し国おこし・三重」の取組等の情報を掲載しています。第7号および第8号の計2回発行し、県民の皆さんや市町、地域づくり関係者等に配布しました。

・第7号、第8号…各20,000部

イ マスコットキャラクターの活用

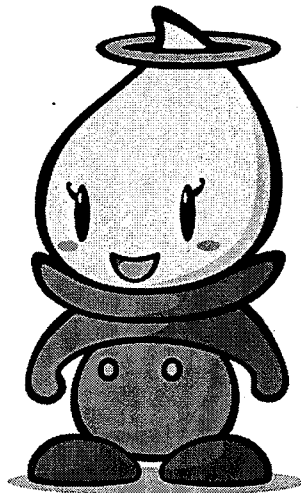
実行委員会で作成するパンフレットやチラシ、駅等への広告看板、名刺台紙などの広報ツール、啓発グッズにおいて、マスコットキャラクターを活用しました。

また、各部局等において作成する印刷物などにおいても、マスコットキャラクターの活用を依頼するとともに、取組の周知を行いました。

さらに、県民の皆さんに本取組に親しみをもち参画していただけるように、マスコットキャラクターの着ぐるみを作成し、各種イベントや県庁見学において使用するとともに、本取組の一層の周知をはかるために、県民の皆さんに着ぐるみを貸し出しするなど、着ぐるみの活用も行いました。

2010年度（平成22年度）マスコットキャラクター着ぐるみ使用実績

平成22年度活動報告・交流会
農地・水・環境保全向上対策「みえのつどい2010」
子育て支援！わくわくフェスタ
アサヒビール(株) 贈呈式
ファミリーマートとの包括協定式
県庁見学
三重大学 アカデミックフェア
桑員地域拡大座談会
美し国三重市町対抗駅伝
Go West
ベルタウン周年事業



う~まちゃん（※愛称は2010年（平成22年）7月23日発表）

ウ 「座談会だより～あむあむ～」の作成

県内各地で開催された「座談会」の内容やパートナーグループの活動をわかりやすく紹介し、地域づくり関係者や関心のある方に、本取組を周知し、参加を促進するための「座談会だより～あむあむ～」を発行し、配布しました。

・第8号～第12号…各15,000部

エ 冊子の作成、広告記事の掲載

「美し国おこし・三重」の取組を県内外の皆さんに情報発信し、取組をより多くの皆さんに知っていただくとともに、参画いただくためのきっかけづくりとなるように小冊子を作成し、三重県内の主要都市部（桑名市、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市）の中心地域各戸（約366,000世帯）等に配布しました。

また、「美し国おこし・三重」の取組を具体的に知っていただき、参画いただくために、県内の主要書店、コンビニエンスストア、スーパー、近鉄大阪線駅の売店などで販売され、定期購読者の多い月刊誌に、記事を掲載し、情報発信を行いました。

オ 啓発グッズの作成

「^{うま}美し国おこし・三重」の取組を県民の皆さんや市町、地域づくり関係者の皆さんに周知し、取組への関心を高め、参加・参画を促進するため、うちわ、手提げ袋、ポケットティッシュ、ボールペン、シャーペン、マスコットキャラクターの鉛筆、根付などの啓発グッズを作成し配布しました。

カ ホームページの拡充

個々のパートナーグループのイベントや拡大座談会、テーマプロジェクト等、その時々^の取組情報や機関紙などの刊行物の掲載を行いました。

キ その他の広報

- ・県政だよりの毎号に「^{うま}美し国おこし・三重」のページを設け、県民の皆さんにお知らせしました。
- ・毎週金曜日に県の取組を紹介している三重テレビ「輝け！三重人～きらめく^{うま}美し国～」において、毎月第4週に「^{うま}美し国おこし・三重」の取組を放映しました。
- ・2011年（平成23年）2月から3月にかけて、「輝け！三重人～きらめく^{うま}美し国～」の放送内容を編集したものを三重テレビで放映するとともに、県内のCATVにおいて放送しました。
- ・ラジオでは、「座談会」や「マスコットキャラクターの愛称募集」などのお知らせを行いました。
- ・三重県町村会とタイアップし、三重テレビの「地域から元気に！～私たちの^{うま}美し国おこし～」において、パートナーグループの取組を紹介しました。
- ・大紀町設置の案内看板に本取組の広告看板を取りつけるとともに、JRと近鉄の時刻表に広告を掲載しました。

③取組の成果など

- ・パートナーグループへのアンケートでは、本取組を知ったきっかけとして、「県・市町の広報紙」が20.9%、「実行委員会広報紙」が16.4%となっています。
- ・同アンケートでは、「^{うま}美し国おこし・三重」の広報支援については、80.8%のパートナーグループから、「満足」、「概ね満足」との回答をいただいています。
- ・一方で、まだまだ、本取組が広く知られていない状況にあります。

④今後の方針

「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」の取組におけるパートナーグループの活動やネットワーク化に向けた活動を、新聞・雑誌などの各種メディアや市町等のイベントを利用するなどして、具体的に広報し、また、「地域での^{うま}美し国おこし」の取組も引き続き情報発信しながら、県民の皆さんに「^{うま}美し国おこし・三重」の取組を理解していただき、参加・参画を促す広報を行っていきます。また、引き続き県民の皆さんへ、マスコットキャラクターを使った広報などを

行っていきます。

(2) 活動促進

①目的（狙い）

誘客活動促進、販売活動促進、移住・交流活動促進、コミュニティビジネス活動促進の4つの分野について、国や県・市町の関連諸事業等を整理し、本取組の推進に活用していきます。

②内容

個々のパートナーグループの活動に応じて、プロデューサー等から助言や情報の提供を行うとともに、パートナーグループの情報発信に努めました。また、必要に応じて専門家派遣を行いました。

③取組の成果など

パートナーグループの活動に関する国や市町の関連諸事業等の整理については、効果的な取組を行うことができませんでした。

④今後の方針

本取組の活動を促進するため、国や県・市町の取組との連携を一層はかっていきます。

6 目標と評価検証の状況

本取組を第三者の視点を加えて検証・評価する評価委員会を2010年（平成22年）6月に設置しました。会議を3回開催し、2010年度（平成22年度）の本取組について、検証・評価しました。

2010年度（平成22年度）の本取組における目標数値との対比は以下のとおりです。

本取組の基本となる座談会の開催数は目標値を大きく上回りましたが、座談会から生まれることが期待されるパートナーグループの登録数は目標値に届かず、パートナーグループの活動充実・満足度も目標値を下回りました。このように、取組の成果に直結する項目は、全て目標値を下回り、全体的に2009年度（平成21年度）の実績も下回る低調な結果でした。

今後、目標と取組成果との関連性が低いと考えられる目標設定の見直しや、県民の関心・参画を高めるための周知方法の見直しなど、全体の取組検証を行う必要があります。

【全体指標の目標値およびその結果】

- ①「一万人アンケート」による「地域への愛着度」 目標 71%以上
[実績 67.7%]
- ②パートナーグループの活動充実・満足度
この取組に参画するパートナーグループの自己評価による活動充実・満足度
目標 70%以上
[実績 69.4%]
- ③集客・交流者数
三重県における観光レクリエーション入込客数 目標 3,400万人
[実績 3,562.2万人]

【個別の取組指標の目標値およびその結果】

- ①自発的な地域づくりのグループの発掘、育成 目標 200グループ
[実績 110グループ]
- ②自立性・持続性を高めるしくみづくり 目標 3件
[実績 2件]
- ③新たなイベントスタイルによる地域力の結集と成果の情報発信
ア) ネットワーク構築数 2010年(平成22年) 目標 600グループ
[実績 167グループ]
2014年(平成26年) 目標 延べ3,000グループ
[実績 2010年(平成22年)まで 延べ276グループ]
- イ) 地域活動参加率
「一万人アンケート」による「地域の活動などに参加している住民の割合」
目標 20%
[実績 13.2%]
- ④その他の個別の取組指標と目標の設定
座談会開催数 目標 350回
[実績 607回]

7 協力・協賛の状況

(1) 目的(狙い)

「^{うま}美し国おこし・三重」は多様な主体が協働して推進していく取組であることから、さまざまな形での協賛や協力を呼びかけていきます。

(2) 内容

- ・22の企業や団体等が、パンフレットやチラシ、名刺等にシンボルマークを活用し、取組の広報を行っていただきました。
- ・企業や団体等から広く協賛を募集するにあたり、「『^{うま}美し国おこし・三重』協賛取扱要領」等を定め、協賛についての手続きや特典等を整備しました。
- ・実行委員会が主催した「平成21年度成果発表・交流会」や「平成22年度活動報告・交流会」に、サポーターズクラブに登録いただいた皆さんがスタッフとして、研修を受講された皆さんが研修のアシスタントなどサポーター役として参加いただきました。

(3) 取組の成果など

- ・シンボルマークを使った広報での協力は、徐々に増えてきました。本取組の認知度が上がれば、さらに広がると考えます。
- ・「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の趣旨に賛同いただいたアサヒビール(株)様より金銭的な協賛をいただき、テーマプロジェクト「海の命・森の命」パンフレットを作成しました。
- ・一方で、広報以外の協力・協賛を増やしていくことが課題です。

(4) 今後の方針

今後は、企業のCSR活動と結びいた協力・協賛のしくみの中で、広報での協力に加え、寄付金等での協力もいただけるよう取組を進めます。さらに、「^{うま}美し国おこし・三重」テーマプロジェクトにおいて企業のCSR活動との連携をはかり、県が包括提携を結ぶ企業との具体的な連携を調整するなど、取組の具体化をめざします。

8 県庁内連携、市町連携の状況

【県庁内連携】

(1) 「^{うま}美し国おこし・三重」推進本部員会議

①目的(狙い)

「^{うま}美し国おこし・三重」推進本部員会議は、「^{うま}美し国おこし・三重」の取組を推進するにあたり、各部局等が連携・協力し、一体となって取り組む必要があるため、副知事を正副本部長に各部局長・理事等を構成員として、2007年(平成19年)11月に設置したものです。

②内容

2010年度(平成22年度)は6回開催し、取組状況や各部局との連携および取組の推進、評価委員会の設置、テーマプロジェクト、2011年度(平成23年度)実施計画の検討、実行委員会提出資料などについて、説明・協議を行いました。

(2) 「^{うま}美し国おこし・三重」推進本部幹事会

①目的（狙い）

各部局等の総務室長等を構成員とし、取組の具体的な検討などを行うために2008年（平成20年）2月に設置したものです。

②内容

2010年度（平成22年度）は3回開催し、取組状況や各部局等との連携事業、テーマプロジェクトの進め方、2011年度（平成23年度）実施計画等について、説明や協議を行いました。

(3) 「^{うま}美し国おこし・三重」地域支援本部会議

①目的（狙い）

県内全域で展開する「^{うま}美し国おこし・三重」における地域での取組を円滑に進めるために、県民センター所長を本部長に関係地域機関長を構成員として、2009年（平成21年）1月から3月にかけて、各県民センターに設置したものです。

②内容

2010年度（平成22年度）は延べ57回開催し、座談会の開催やパートナーグループの登録状況、各事務所間連携の検討、2011年度（平成23年度）実施計画等について、説明・協議を行いました。

(4) 県庁内連携の取組成果など

①取組の成果など

- ・本取組の現状や実施計画の説明・協議を行うことで、各部局間、各地域事務所間で共通認識をもつことができました。
- ・地域支援本部員会議では、実行委員会事務局地域事務所と関連する地域機関との連携をはかることができました。

②今後の方針

推進本部員会議・推進本部幹事会については、集大成イベントに向け、方針や計画の策定などの協議を行うため、開催回数を増やし、各部局等との連携を一層推進するとともに、県を挙げて取り組む機運の醸成に努めます。

【市町連携】

(1) 市町訪問

①目的（狙い）

理事や地域事務所職員が市町を訪問し、意見交換を行うことで、連携を深めていきます。

②内容

「^{うま}美し国おこし・三重」担当理事が、春（4～6月）と秋（10～12月）に、全市町の首長、幹部職員を訪ね、意見交換を行いました。

また、日々の業務の中で、地域事務所職員が市町職員と意見交換を行い、連携を深めています。

(2)「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」等での報告

①目的（狙い）

市町の首長や市町の幹部職員が会する機会をとらえ、取組への理解や現状報告を行います。

②内容

町村会や市長会での説明や「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」等で状況報告等を行い、情報の共有化をはかりました。

(3) 市町連携の取組成果など

①取組の成果など

市町の首長から担当者まで、広く取組の理解を求めた結果、全市町で座談会が開催されるなど、連携して取り組める体制が整ってきました。

②今後の方針

地域駐在を中心に、引き続き、取組への理解促進と、よりよい取組にしていくための意見交換を進めていきます。

9 評価委員会意見

評価委員会は、「^{うま}美し国おこし・三重」実行委員会が行う取組について、第三者の視点から中立的な検証・評価を行うために設置したものです。

2011年（平成23年）3月1日（火）に第3回会議、6月13日（月）に第4回会議を開催し、2010年度（平成22年度）の取組に関していただいた評価委員長報告および意見、それに対する考え方は、次のとおりです。

(1) 2011年（平成23年）3月15日付け、評価委員会評価委員長報告

①平成22年度「^{うま}美し国おこし・三重」の検証、評価について

平成21年度に取組が本格的に開始され、2年が経過した現在の印象は、本取組に参画する活動団体を見つけ出すための話し合いに終始した感が強い。一方で、サポートメニューの財政的支援を活用して地域資源を生かした特産品を開発し、製造の準

備を進めるなど目標の実現に向けて一歩進み始めたグループや、ネットワーク化支援による企業との業務提携が、障がい者雇用を維持するための課題解決の一助となったグループなど、本取組により具体的な成果があらわれ始めており、そろそろ次のステップに進む時期にきていると強く感じる。

一方、取組のめざすべきすがたが見えにくいことが、参画への障壁となっており、また、パートナーグループ登録数が目標に及ばず、伸び悩んでいることから、本取組の集大成の具体的なすがたを示すとともに、参画したグループの自立・持続性を高めるための支援を行うことにより地域の活性化につなげていくという目的や手法を明確にすることで、県民にわかりやすい取組とする必要がある。

また、実施方法に関しては、取組全般にわたって、ノウハウ・専門知識等を県外在住のプロデューサーや専門家等から得ており、当該ノウハウ等を地域に還元していく必要がある。その還元先は、市民活動センター等の中間支援組織や住民自治組織、そして市町・県職員が挙げられ、そのためのしくみづくりを進めていく必要がある。また、活動しているグループに還元することも重要であり、グループが本取組に参画するしくみの中で実現が望まれる。

最後に、取組がめざすべきすがたの一例として、団塊の世代が、10年後に自分たちを支えるためのしくみづくりを行うことを挙げ、提言としたい。

②「^{うま}美し国おこし・三重」平成22年度プロデュース業務および平成22年度「^{うま}美し国おこし・三重」地域担当プロデューサー業務の検証、評価について

座談会の開催や全てのパートナーグループについて課題の解決、目標の実現に向けた道筋を示すなど、1年間に実施した業務量は十分に評価できる。また、サポートメニューを活用し、特産品の開発・製造という目標の実現や障がい者雇用を維持するための課題解決の一助となった例があるなど、プロデュース業務に一定の成果があらわれつつあることも評価できる。

しかしながら、全体として、プロデューサーの活用度合は低調に見受けられ、パートナーグループから「^{うま}美し国おこし・三重」で何ができるのか、どんな支援を受けることができるのかがわからないと言った声もあり、対話を重ねることで課題や目標を引き出すこと、またグループ活動の自立・持続性を高めるための提案が積極的に行われていないことが、業務活動報告書にも見受けられる。

県外在住のプロデューサーや専門家による外からの目線の重要性は認識しつつも、取組期間の中盤を迎え、プロデューサーの役割を見直す時期にきていると考えられる。担い手支援におけるプロデューサー等のノウハウ・専門知識等を県内の市民活動センターや県内在住のプロデューサー等に還元するため、地域の人材を活用するなど、地域に還元するしくみを構築しながら、業務移管・委託業務範囲の縮小を視野に入れた契約内容に変更していく必要がある。

平成23年度の契約更新については、さらなる活躍への期待も込めて可とするが、回数や方法といった結果ではなく、パートナーグループがどういう状態になったのか、地域がどのような状態になったのかという状態を成果として求める必要がある。プロデューサーのノウハウ等を地域に還元するために、各パートナーグループに対する

より精緻なマイルストーンを設定させたり、ケーススタディとなるような支援活動のプロセスや課題の解決方法を報告書に記載させるなど、契約の仕様書を検討する必要がある。

(2) 2011年(平成23年)6月開催の評価委員会における意見とそれに対する考え方

意 見	対 応 方 針
<p>総事業費の約半分をプロデュース業務が占めている状況に鑑み、パートナーグループへの支援をもっと強化するための今後の方向性を検討しているのか。</p>	<p>パートナーグループとの対話を深め、課題の抽出や解決策を提示することで、財政的支援を始めとする支援メニューを使っていただけるようにしたいと考えています。</p>
<p>パートナーグループへのアンケート結果によると、財政的支援について、「不満足」が50%を超えているが、制度の見直しの必要性があるのではないかな。</p>	<p>ランニングコストへの財政的支援の要望をいただいておりますが、取組の趣旨に鑑み、今後も、初期投資に係る経費のみを対象としたいと考えています。なお、複数の市町に跨る場合の支援措置、手続きの簡素化については検討していきたいと考えています。</p>
<p>県庁内の推進体制の充実と、市町や中間支援組織(市民活動支援センター等)との協働を、一層推進する必要があるのではないかな。</p>	<p>本取組に従事する職員が自らプロデュースできるよう、日々の業務の中で資質向上に努めていきます。協働の現状は、地域によってさまざまですが、一層協働を推進していきたいと考えています。</p>
<p>取組の目標値に対する達成度が低いことについて、量よりも質を問う姿勢への転換(掘り起こしよりも育成の重視)の必要性があるのではないかな。</p>	<p>目標1,000のパートナーグループ登録については、集大成イベント実施計画の策定過程において、適切な目標設定を検討したいと考えています。グループへの適切な支援が行えるよう、グループとの対話を進め、活動内容や地域特性の把握に努めていきます。</p>
<p>長期間にわたる本取組の各年度の評価と経年評価の併用による、強みと弱みの分析の実施、またその事業計画への反映が重要ではないかな。</p>	<p>満足度が全体的に下落傾向であるため、対応を引き続き検討していきます。</p>

<p>今後、検討していく必要がある項目として次の意見をいただきました。</p> <p>① 県庁内の組織のあり方や、本取組における地域機関と市町の役割の整理の必要性について</p> <p>② テーマプロジェクトの公募や財政的支援など、パートナーグループの課題やニーズの把握と必要な支援策の検討について</p> <p>③ 広報戦略の必要性と広報の実施方法について</p> <p>④ 本取組の県民への訴えかけの必要性について</p>	<p>いただいた意見について、検討していきます。</p>
---	------------------------------